罪の意識と恥の意識が他人を頼る行動に与える影響

田中麻里衣[a]　村野悠輝[b]　谷田部力樹[c]

要約

本研究では，罪の意識，恥の意識が他人を頼る行動に与える影響について調査を行った．人が「頼る」という行動を控える要因として，罪の意識や恥の意識が関わっているのではないかと考え，「罪の意識が強いほど他人を頼る行動を控える傾向にある」「恥の意識が強いほど他人を頼る行動を控える傾向にある」という仮説のもとで，Google Form でアンケートを作成し，量的な研究を行った．71 名のアンケート結果を集計して回帰分析をおこなったところ，研究仮説に対して統計的に有意な結果，特に罪の意識と道具的依存行動においては整合的で有意な結果が得られた．

JEL 分類番号： D9
キーワード：罪の意識，恥の意識，頼る行動，男女差

[a] 慶應義塾大学 marie.t@keio.jp
[b] 慶應義塾大学 murano721@keio.jp
[c] 慶應義塾大学 y.riki0923@gmail.com

１．イントロダクション

人は誰しも生きているうちにモノを借りるなどの頼みごとや，自分の人生に影響を与える相談をすることがある．そして誰かに何かを頼むとき，相手に迷惑をかけるのではないか，自分で行わないことを非難されるのではないかという罪の意識や恥の意識が存在し，頼るべきかの判断に影響を与えている.そこで我々は,罪の意識や恥の意識が強い人ほど,他人に頼る時にも罪の意識や恥の意識を強く感じることにより，他人に頼ることを遠慮して頼れないのではないかという仮説を立てた．また，男性は伝統的に一家の大黒柱としての役割を担っていたため，他人に頼ることに対して特に罪悪感や羞恥心を感じやすく，他人を頼ることを避け，反対に女性は頼りやすいのではないかと考えた.

２．関連文献の説明

ここでは，竹澤・小玉（2004）の定義に沿って他人を頼る行動，すなわち依存行動を「情緒的依存，道具的依存の２つの側面からなり，是認，支持，助力，保証などの源泉として他人を利用ないし頼りにしたいという欲求」に基づく行動とし，情緒的依存とは「他者との情緒的で親密的な関係を通して自らの安定を得ること」,道具的依存とは「自身の課題や問題解決のために，他者からの具体的な援助を求めようとすること」あるとする．渡邊・池(2017)では,「頼りたくても頼れない」という状況は評価への過敏性に起因するとされた.ここでは依存欲求を表出することに対する負の考え方が影響しているとされているが,我々は評価への過敏性の背景には集団や社会への適応を問われる危機的場面があり，その際に感じる罪の意識や恥の意識が他人に頼る行動に関係していると考えた.

さらに有光(2001)を参考にし，本研究では罪の意識と恥の意識を以下のように定義する.
罪の意識…その人の属する集団にとって悪いこと，非難されるべきことをした時に感じるもの　恥の意識…自分が起こした行動に対して自分自身が恥ずかしいと感じるもの.

３．研究方法

研究方法としては,Google Form でアンケートを作成し,LINE 等の SNS を通じて配布することで回答を得た．男性 36，女性 35 で合計 71 の有効回答をもとに回帰分析を行った．アンケート内容については添付されている質問票を参照していただきたい．質問の構成としては，罪の意識と恥の意識の強さを測る質問を各４問，他人に頼ることができる度合いを測る質問について，情緒的依存行動と道具的依存行動を各 5 問，他人に頼ってよかったかどうかを問う質問を各５問設け，重回帰分析を行った.

罪・恥の意識についての質問では，回答に１「全く感じない」から５「とても感じる」までの 5 つの選択肢を設け，数値が大きいほど罪・恥の意識が強いと考えた．他人に頼る

行動についての質問では，「自分の劣等感に関する相談」や「買い出しを頼む」などの計10個の質問に対し，それぞれどれくらい頼ることができるかを1「頼れない」から4「頼れる」までの4段階で回答してもらい，数値が大きいほど他人に頼ることができるとした．他人に頼ってよかったかどうかを問う質問では，他人に頼る行動についての質問と同じ内容に対して回答者が頼ってよかったと感じた度合いを1「とてもわるかった」から5「とてもよかった」までの5段階と「頼ったことがない」の6つの選択肢を設け，数値が大きいほど過去の頼った行動に対してプラスの印象を抱いているとした。また，ここで「頼ったことがない」の選択肢は中立の数値である3として分析を行った．

ダミー変数を用いた重回帰分析では, i は各回答者とし, i＝男性の時は D=0, i=女性の時は D=1とした．

4．結果，考察

重回帰分析を用いて経験を考慮して罪の意識，恥の意識と他人を頼る行動の関係性を分析した．分析の結果，有意となったものを以下の表に示す．

表1．重回帰分析結果

	被説明変数	説明変数	係数	P値
①罪，情緒	前を歩く人が落し物をしたが見て見ぬふりをした。	自分の劣等感に関する相談	0.24346	0.0253
	前を歩く人が落し物をしたが見て見ぬふりをした。	学校や仕事でうまくいかないとき相談にのってもらう	0.20878	0.04447
	ゴミをポイ捨てした。	自分の劣等感に関する相談	0.25962	0.25962
	電車で高齢者や妊婦に席を譲ろうとしなかった。	家庭の悩みを聞いてもらう	0.21809	0.05431
②罪，道具	前を歩く人が落し物をしたが、見て見ぬふりをした。	買い出しを頼む	-0.2858	0.00653
③恥，情緒道具	ゴミをポイ捨てした。	ティッシュをもらう	-0.1102	0.01396
	前を歩く人が落し物をしたが見て見ぬふりをした。	2000円以上借りる	0.13633	0.07097
	前を歩く人が落し物をしたが見て見ぬふりをした。	自分の劣等感に関する相談	0.10736	0.19665
	約束をやぶった。	自分の将来に関する相談	-0.1073	0.11638

表２．重回帰分析結果（男女ダミーあり）

	被説明変数	説明変数	係数	P 値
④ 罪,情緒	ゴミをポイ捨てした。	学校や仕事でうまくいかないとき相談にのってもらう	-0.3985	0.05772
④ 罪,道具	前を歩く人が落し物をしたが、見て見ぬふりをした。	筆記用具を借りる	0.22316	0.05886
	電車で高齢者や妊婦に席を譲ろうとしなかった。	自分がやるべき仕事を手伝ってもらう	0.46588	0.04335
④ 恥,情緒	電車で高齢者や妊婦に席を譲ろうとしなかった。	自分の劣等感に関する相談	-0.409	0.02261
④ 恥,道具	約束をやぶった。	筆記用具を借りる	0.20795	0.03834
	電車で高齢者や妊婦に席を譲ろうとしなかった。	筆記用具を借りる	0.19652	0.05001

罪の意識と情緒的依存行動に４つ，罪の意識と道具的依存行動に１つの有意な結果が出ている．ただし，ここで注目すべき点は情緒的依存行動と道具的依存行動で係数の符号が異なっている点である．係数が負である道具的依存行動については当初の研究仮説通りであるといえる．

①「罪の意識を感じるほど情緒的に頼る傾向がある」

罪の意識は世間的な評価によるものであり，劣等感に関する相談などの情緒的依存行動は道具的依存行動に比べ，世間的に頼られたら助けるべきという印象があり，頼りやすいと考えられる．特に,「前を歩く人が落し物をしたが見て見ぬふりをした」「電車で高齢者や妊婦に席を譲ろうとしなかった」といった他人を助けなかったことに対して罪の意識を感じる人は,特に他人を助けることに対して社会的に大きな価値があると考えているため,情緒的に頼りやすいと考えられる.

②「罪の意識を感じる人ほど道具的に頼らない」

買い出しを頼むなどの道具的依存行動は人を利用している印象が強く，世間的に良しとはされないため，罪の意識を感じやすく，頼れなくなると考えられる.

③恥の意識が情緒的依存行動，道具的依存行動に与える影響については正と負の統計的有意が得られた．これは，恥の意識は自分自身の尺度によるものであり，個人差が出たためであると考えられる.

④「男性は道具的に他人に頼れず，女性は情緒的に頼れない傾向がある」

男性は比較的競争意識やプライドが高い人が多く，道具的依存行動はそれらを損なう要因になると考えられるため，このような結果が出たと考える．また，競争意識やプライドが高いゆえに他人からの評価を気にしやすく，自分の弱さを克服するためにも親しい間柄が想定される情緒的依存行動は行いやすいのではないかと考える．

一方，女性は比較的相手の感情を推し量る傾向があり，情緒的依存行動のように相手の気分を暗くするような深刻な頼みは敬遠されやすいが，頼る行動を通じて仲を深めようとする傾向があるため，道具的には頼りやすいと考える．

５．結論

今回の調査では，罪の意識が道具的依存行動に与える影響に関して研究仮説通りの有意な結果が得られ，罪の意識が情緒的依存行動に与える影響に関して研究仮説に相反する有意な結果を得た．その背景には，罪の意識と恥の意識の特性や男女の性格的特徴の差異があるという推測を得た．今回の研究で，回答者の年齢や頼る相手との関係性による頼りやすさの違いがあるという意見をいただいたため，今後はそれらの考慮も検討する必要があるだろう．

付録（質問票）

Q1 性別を教えてください.

Q2 あなたは以下の状況でどのくらい羞恥心を感じますか？

Q2,3 の回答の選択肢（5 段階）

とても感じる・感じる・どちらともいえない・感じない・全く感じない

Q2.1 前を歩く人が落し物をしたが，見て見ぬふりをした.

Q2.2 ゴミをポイ捨てした.

Q2.3 約束を破った.

Q2.4 電車で高齢者や妊婦に席を譲ろうとしなかった.

Q3 あなたは以下の状況でどのくらい罪悪感を感じますか？

以下 Q2 と同様

Q4 以下の場合，誰かしらに頼ることがどのくらいできますか.

Q4,6 の回答の選択肢（4 段階）

頼れる・どちらかというと頼れる・どちらかというと頼れない・頼れない

Q4.1 自分の劣等感に関する相談

Q4.2 自分の将来に関する相談

Q4.3 人間関係の愚痴を聞いてもらう
Q4.4 家庭の悩みを聞いてもらう
Q4.5 学校や仕事でうまくいかないとき相談にのってもらう
Q5 以下の場合，頼った経験がある人は頼ってよかったとどれくらい感じましたか？頼ったことがない場合は一番右を選んでください.
Q5,7 の回答の選択肢
とてもよかった・よかった・どちらでもない・わるかった・とてもわるかった・頼ったことがない
Q5.1 自分の劣等感に関する相談
Q5.2 自分の将来に関する相談
Q5.3 人間関係の愚痴を聞いてもらう
Q5.4 家庭の悩みを聞いてもらう
Q5.5 学校や仕事でうまくいかないとき相談にのってもらう
Q6 以下の場合，誰かしらにどのくらい頼ることができますか.
Q6.1 筆記用具を借りる
Q6.2 ティッシュをもらう(ティッシュ配りは除く)
Q6.3 買い出しを頼む
Q6.4 自分がやるべき仕事を手伝ってもらう
Q6.5 2000 円以上借りる
Q7. 以下の場合，頼った経験がある人はどれくらい頼ってよかったと感じましたか？頼ったことがない場合は一番右を選んでください.
Q7.1 筆記用具を借りる
Q7.2 ティッシュをもらう(ティッシュ配りは除く)
Q7.3 買い出しを頼む
Q7.4 自分がやるべき仕事を手伝ってもらう
Q7.5 2000 円以上借りる

参考文献

・有光興記(2001)『罪悪感，羞恥心と性格特性の関係』，性格心理学研究, 9 巻 2 号 p.71-86
・竹澤みどり，小玉正博(2004)『青年期後期における依存性の適応的観点からの検討』，教育心理学研究 p.310-319
・渡邊つかさ，池志保(2017)『他者に頼りたくても頼れない要因 ～自己愛と友人との付き合い方の観点から～』，福岡県立大学心理臨床研究 9 巻